

福島県双葉郡子ども会議 実施報告

1. 主催

福島県双葉郡教育復興に関する協議会

2. 日時・場所

平成 25 年 3 月 31 日（日） 10 : 00~15 : 00

エルティ （福島県福島市）

3. 参加者

約 80 名

- ・福島県双葉郡の児童生徒 約 25 名
- ・同保護者 約 24 名
- ・その他関係者（協議会委員、大学生、行政関係者等） 約 30 名

4. 概要

双葉郡 8 町村の小中高校生（県内・県外区域外就学児童生徒含む）約 30 名が集まり、「双葉郡について思うこと、双葉郡の今とこれから」について、学校に焦点を当てながら意見交換を行った。保護者約 20 名と教育関係者約 30 名も途中加わりながら、子供たちの意見を引き出した。子供たちは、仲間や地域とともに学びあい活動する機会を強く求めていることが感じられた。

子供たちは、地域を元気づけ笑顔を増やしたいという想いを強く持ち、お祭りやスポーツ大会等を自ら企画することや、誰もが集える施設を設けていくことについて、多くの提案が為された。

学校については、誰もが通いたくなる学校を創りたいとして、他の学校では味わえない特徴ある教育内容（留学や著名人による講義）の他、部活動ができる人数規模の確保について多くの率直な意見が出された。学園祭等の行事についても意見も聞かれ、子供たちが、本来学校で取り組める当たり前の集団活動の機会を、強く求めていることがうかがわれた。また、避難している友達との再会の集いの継続の希望についても多くの意見が出された。

また、将来の進路に対する夢についての意見が出された一方で、不安の声も出された。なかでも、そもそも避難後に落ち着いて考えたり自らの将来を選択する場面がなかったとの指摘があり、判断するための選択肢や機会が欲しいという切実な声も聞かれた。

双葉郡のこれからについては、これまでの常識にとらわれず、これまでになく対応をすることが大切との意見が出された。また、こうした話し合いの機会を増やし、継続していくことの重要性の指摘も多数出された。

閉会にあたり、双葉地区教育長会長から、率直な子供たちの意見が多く聞かれたことに感謝の意が示され、子供たちの指摘にあった通り、子供たちの意見を中心に置いて、前例にとらわれない教育の復興を進めると決意が述べられた。また、すぐに取り組める提案も多く、できることから即着手していく考えが示された。今後も対話の場を継続的に設けていくことが確認され、閉会した。

5. 主な意見

双葉郡について

(1) 双葉郡の地域を笑顔にしたい

- 仲間や友達みんなで作る行事（祭りや、スポーツ大会等）を、子ども中心で地域とともに創り、あらゆる年代が一つになり、よりたくさんの笑顔を生みだしたい。
- 人が集まり、高齢者や海外の人も含めてみんなが楽しめる場所づくり（自然、公園、温泉施設、娯楽施設等）も進めたい。
- 皆が幸せになるよう生活の基盤をきちんとする。
- ふるさとを大事にしたい。

(2) 双葉郡から全国や世界へ情報発信をしたい。

- インターネットも利用して、「さすが双葉、素晴らしいぞ双葉」と思ってもらえる情報を世界に発信し続け、避難した人も安心して帰ってこられる状況を作る。
- 双葉郡の学校と全国の学校とで日常的な連携を行うことで、若い世代で情報を発信して双葉郡のマイナスイメージを払拭したい。

双葉郡の学校について

(3) みんなが来なくなる学校にしたい。

- その学校に在籍していなければ出会えない、ほかの学校にはない授業（海外留学や海外の学校との提携、風評についての授業、地震などの際に予測して行動する力をつける授業、有名人による授業等）や体験の機会があり、世界にはばたいていける学校。
- やりたい部活が選べる、部活が活発な学校。
- 高校生の醍醐味である文化祭に取り組める学校。
- 中学時代の友達と一緒に進学できる高校。
- サテライト校舎ではなくみんなで同じ校舎で勉強や部活動ができる学校。
- 通学時間が短い学校。
- 魅力的な制服がある学校。
- 子供の意見を聞いて子供を中心とした学校
- 町の人にとってもよりどころとなり、多くの人を訪れる学校。

友達との再会の機会等について

(4) 友達との再会の機会を大切にしたい。体験の共有をしたい。

- 今は違う学校に通っていても、近くに住んでいるふるさとの友達とは頻繁に集まっている。友達との話す機会が笑顔になる。
- 離れてしまった友達に会いたい。再会の集いを開催して欲しい。双葉郡の町村で合同で開催したり、年代毎に開催するなど工夫が考えられる。
- 友達と再会したり、新しい友達が出来たりすると、必ず今の生活やこれまでの避難の変遷の話の共有をするのが通例となっている。

個人としての選択肢について

(5) 選択肢や進路の選択肢がほしい。

- 故郷（被災地）には戻りたいが、実際に戻れる環境にあるのか分からず、選択することができない。いきなり避難しろと言われてから今まで、落ち着いて考える余裕がなかった。将来などを選択する選択肢や、判断するための機会が欲しい。
- 人の役に立ちたい。医療の仕事に進みたいと思っている。しかし将来の見通しが分からず、地理的にどこの学校に進めば良いか分からないことから焦りがある。

今後の取り組みについて

(6) 今後の取り組みについて

- これまでの常識にとらわれず、これまでにない対応をすることが大切。
- 時間を無駄にはできず、協力して復興に近づけていくことが必要。
- 2年経って大人と子どもの対話が大切となった。単発の話し合いで終わらせず、長期的・継続的に話し合う機会を増やしたい。前のめりにならず、急がず、ぽろっと本音が出て来るような時と場を設定していくことが必要。

《参考：参加者詳細》

○参加者 約 80 名

- ・福島県双葉郡の児童生徒及び保護者 合計 50 名
 - 葛尾村 5 名（小学生 3、中学生 0、高校生 0、保護者 2）
 - 檜葉町 6 名（小学生 2、中学生 1、高校生 0、保護者 3）
 - 大熊町 8 名（小学生 0、中学生 3、高校生 2、保護者 3）
 - 浪江町 10 名（小学生 1、中学生 2、高校生 2、保護者 5）
 - 双葉町 2 名（小学生一、中学生一、高校生一、保護者 1）
 - 広野町 2 名（小学生 0、中学生 1、高校生 0、保護者 1）
 - 川内村 9 名（小学生 2、中学生 3、高校生 0、保護者 3、教委 1）
 - 富岡町 8 名（小学生 0、中学生 1、高校生 2、保護者 4、教諭 1）
- ・その他関係者 約 30 名
 - 福島県双葉郡 8 町村 教育長
 - 福島大学ボランティアスタッフ
 - 文部科学省 7 名
 - 復興庁 2 名

《参考：日程詳細》

- 平成 25 年 3 月 31 日（日） 10:00～15:00
- 10:00～10:10 開会挨拶 中田座長
 - 10:10～12:00 午前の部（ワールドカフェ）
 - 10:10～10:15 午前の部進行説明
 - 10:15～10:45 「双葉郡について思うこと、双葉郡の今とこれから」について
小学生、中高生、保護者、大人のグループに分かれて話し合い
 - 10:50～11:45 グループを移動、上記テーマについて年齢の区別なく話し合い
 - 11:45～12:00 元のグループに戻って議論の共有
 - 12:00～13:00 休憩
 - 13:00～14:30 午後の部（オープン・スペース・テクノロジー）
 - 14:30～14:50 イブニングニュース
 - 14:50～15:00 閉会挨拶 武内委員、荒井協力委員、上月協力委員、中田座長

《参考：会場風景等》

